

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	ロボット産業促進事業			事業番号	21-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	石田 康弘	商工観光課	志村 政昭	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち	
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり	
		施策展開の方向	10	地域の産業が盛んなまちをつくる	
		施策	21	地域を支える商業・工業の振興	
予算事業名	企業立地促進事業				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	～	終了年度	—	
関連法令等					
国・県の計画等	さがみロボット産業特区		計画期間		
関連個別計画	伊勢原市産業ビジョン		計画期間	平成25年度～令和4年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	交通アクセス性の飛躍的な向上や平成25年度から進められているさがみロボット産業特区の熟度が高まり、成長産業として期待されるロボット関連産業の集積とともに、既存企業の更なる発展に向けた新たな企業活動が求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	さがみロボット産業特区等の地域特性を生かし、産学官連携等によるロボット開発の実証実験等を進め、将来的な商品化等を見据えた民間事業者等での導入促進を図るとともに、生活支援ロボットの普及啓発及びロボット関連産業の集積、企業参入の促進を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	既存企業及び新規立地企業				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性である観光資源を生かしたロボット活用の新たな可能性を探り、ロボット関連事業者との産学官連携等による継続的な実証実験等の実施や企業参入に向けた交流事業を推進します。 ・防災・消防等の関係所管課と連携し、ドローンや市内企業が開発した災害対策ロボット等の活用など、本市ならではのロボット活用を発信します。 ・県や関係機関等と連携し、生活支援ロボット関連の普及啓発事業を推進します。 				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	ロボット実証実験等事業	実証実験等事業実施	実証実験等事業実施	実証実験等事業実施	
	企業参入促進	交流事業等実施	交流事業等実施	交流事業等実施	
生活支援ロボット普及啓発事業	普及啓発事業実施	普及啓発事業実施	普及啓発事業実施		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	ロボット関連事業の実施件数	—	2件	2件	3件

 事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	大山などの観光地における下肢支援ロボットの活用を目指し、商工会工業会や交通事業者、地域団体等と連携を図りながら、ロボット実証実験を継続します。また、さがみロボット産業特区と連携し、ロボットの普及・啓発事業に取り組みます。				
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施		<input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	伊勢原市商工会	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容	直営による実施	
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	ロボット実証実験等事業	実証実験等実施	実証実験等実施	未実施	
	企業参入促進	交流事業等実施	交流事業等実施	未実施	
	生活支援ロボット普及啓発事業	普及啓発事業実施	普及啓発事業実施	普及啓発事業実施	
実施した取組の内容	・新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が中止となりましたが、県と連携し、市内小学校においてロボットリテラシー授業を実施しました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	ロボット関連事業の実施件数	-	3件	3件	1件

	年度	平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
		千円	円	千円	円	千円	円	千円	円	千円	円		
コスト	事業費合計 (a)		314	千円	314	千円	13	千円	13	千円			
	内訳	国県支出金 ①	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円			
		地方債 ②	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円			
		その他特財 ③	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円			
		一般財源 (a)-①-②-③	314	千円	314	千円	13	千円					
国県支出金の内容													
その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期									
	その他												
人件費	正規職員	0.21	人	1,787	千円	0.21	人	1,827	千円	0.11	人	946	千円
	その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	人件費合計 (b)	0.21	人	1,787	千円	0.21	人	1,827	千円	0.11	人	946	千円
トータルコスト (a)+(b)		2,101	千円	2,141	千円	959	千円						
単位当たりコスト	対象数	定義	ロボット関連事業の実施件数		単位	ロボット関連事業の実施件数		単位	ロボット関連事業の実施件数		単位		
		対象数	3	件	3	件	1	件					
	総事業費 / 対象数	700,333	円	713,667	円	959,000	円						

評 価 (Check)				
進捗状況 [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input checked="" type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	C	左記判断理由	信州大学などと連携して取り組む大山における下肢支援ロボットの実証実験については、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止としました。
実施水準 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	大山における下肢支援ロボットの実証実験については、令和元年7月にさがみロボット産業特区における「重点プロジェクト」に認定されており、他市より高い水準で実施しています。
有効性 [選択・記入]	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	大山における下肢支援ロボットの実証実験については、平成29年度から実施しており、一定の成果が見られていますが、実際の活用に向けては課題が多く、現時点での導入は困難です。
効率性 [選択・記入]	<input type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	B	左記判断理由	県や交通事業者などと連携することで、ロボット関連事業を効率的に実施していますが、これまでの実験結果を踏まえ、取組の方向性や各関係機関の関わり方などを明確にする必要があります。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
事業推進上の課題	大山などで下肢支援ロボットの実証実験を3か年実施し、一定の成果が見られていますが、製品化及び普及を視野に、取組の方向性や各関係機関の関わり方などを明確にする必要があります。
令和3年度の取組方針	大山などの観光資源を生かしたロボットの活用を目指し、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見極めながら、ロボット実証実験等に取り組めます。また、さがみロボット産業特区と連携し、ロボットの普及・啓発事業に取り組めます。
所管部長による総評	本市の強みである大山などの観光資源や、伊勢原大山インターチェンジの開通による交通利便性、さがみロボット産業特区であることなどの強みを生かしながら、ロボット産業の集積及び市内企業の参入促進を図ります。